児童数配付

№563　5月号　令和8年4月30日

西東京市立東伏見小学校
校　長　中嶋　太

かけはし

学校ホームページ　更新中

学校HP

「ふしみっ子」の関わり

校長　中嶋　太

東伏見小学校の子どもたちのことを伝統的に「ふしみっ子」と呼んでいます。「ふしみっ子」の「ふ」の字は、「ふれあい」の「ふ」です。また、「ふしみっ子」の「し」の字は、「しんせつ」の「し」です。そして、「ふしみっ子」の「み」の字は、「みとめあい」の「み」です。つまり、「ふしみっ子」は、「ふれあい・しんせつ・みとめあい」のできる、関わり上手な子なのです。

関わりといっても、お互いの立場によって、そこで得る学びは異なります。最も多い立場は、対等な関係です。学級の友達同士の関係は、これに当たります。日々の学習活動を通じて互いに切磋琢磨することで、自然と触れ合い、親切にしたりされたりしながら、相互のよさを認め合っていきます。子どもたちにとって、学校生活の多くを占める関わりです。また、他には異学年での関わりもあります。年度当初は、６年生が１年生の教室に行き、学習の準備を補佐したり、給食の片付けを手伝ったりします。１年生にとってみれば、お世話をしてもらう立場に当たります。一見すると、１年生は、受け身的な立場に見えますが、困っているときにサポートを受けることは大事な経験です。６年生との関わりを通じて、１年生は上手に支援を得る術を学びます。また、６年生は、１年生に対してお世話をする立場に当たります。でも、その取組は、そう簡単ではありません。１年生の様子をしっかり捉えていないと、適切なサポートはできないからです。１年生が自力でできることを手伝ってしまえば、１年生の活動機会を奪ってしまいます。どの子が困っているのか、どう対処すればよいのか、瞬時に考え動く柔軟性が求められます。そうした意味で、上の学年の子にとってこそ、多くの学びがあるのです。

４月は、１年生を中心に、関わる場が多く設定されています。２年生は、入学式に参列して、１年生の入学を歌や言葉で祝いました。新型コロナ・ウイルス感染症に伴うソーシャルディスタンスの影響で様々な交流活動が廃止に追い込まれましたが、本校では早々に復活させました。１年生の保護者をはじめ、参列いただいた来賓の皆さんからは、好評のイベントです。また、22 日（水）には、「１年生を迎える会」がありました。６年生は手をつないで１年生を誘導し、４年生が作った花のアーチの下を歩みました。２年生はアサガオの種がついたメダルを手渡し、３年生は祝福の言葉を送りました。そして、５年生は楽しい学校クイズを出題しました。それぞれの学年が、役割に応じた関わりを演出したのです。そして、28 日（火）には、武蔵野中央公園へ全校遠足に出かけました。前半は１・６年、２・５年、３・４年のなかよしペアで交流活動を行い、後半は学年ごとに同級の関係を深めました。昨年までは、学年ごとに遠足に行っていましたが、関わりを深めることを目的に今年度から全校遠足に切り替えました。

子どもたちは、「ふしみっ子」の一員として、様々な活動を通じて発達段階に応じた学びを深めています。

☆５月　生活目標　すすんであいさつをしよう

５月 11 日（月）から 15 日（金）まで、「社会を明るくする運動」として、挨拶運動が行われます。本校の校門前にも、地域の皆さんが大勢集まり、挨拶運動に取り組んでくださいます。挨拶や返事、言葉遣いなど、相手のことを考えて行動することで思いやりのある温かい学校にしていきたいです。

生活指導部

16 平和と公正をすべての人に